

(続報 1)

箱根大涌谷の暴れん坊

平成27年5月30日早朝

前夜の強風も止み、起床後直ぐに富士山を眺めるとはっきりとその雄姿をみせており、いつになく空気も澄み春特有の霞がなかった。前夜の風が中国からの飛来物質を吹き飛ばしたようだ？

早速、カメラ片手に畑の見回りを兼ねて撮影ポイントに出かけた結果、見事に撮影することができた。(情報局作成仲間のKさんが先客として撮影ポイントを確保していた)



早朝のためか大涌谷周辺の風も無いようで水蒸気は真っ直ぐに上昇しているところが撮影できた。

我々の住む寺田縄はいろいろなことに遭遇できる素晴らしいところだ！



花菜ガーデン内の「みはらしデッキ」からはこのように見えました。噴出される水蒸気の量が多いのか、空高く昇り一部は雲のようです。今後、この場所も、ビューポイントになりそうです。空が澄み、風がなく、噴出量が多い時が最良です。

30日の新聞の朝刊には、箱根ではありませんが、「噴火 全島137人避難」の大見出しです。「口永良部 船・ヘリで屋久島到着」と見出しが続きました。

鹿児島県の口永良部島の新岳噴火のニュースです。島民137人は、ほぼ着の身着のまま隣りの屋久島に無事避難を完了しました。

学校では噴火への備えは万全で、常備されていたヘルメットは、登下校はもとより体育で外に出る時も携行していました。また、避難で使う車は正門に頭を向けて駐車していたそうです。

島民への防災説明会は繰り返され、お互いに声掛け、助け合いながら、避難の方法は身体の一部になっていたそうです。避難施設までの標識は夜間にはライトに反射する仕組みがとられていたようです。口永良部島では万全な備えが確立していました。

1986年 伊豆大島の三原山の噴火による全島避難、 2000年には三宅島で全島避難が行なわれたこと、忘れることはできません。

相手は「自然現象」です。いつ何時、想定外の事態が起こるか分かりません。地震、津波、自然災害の多発する日本列島です。過去にも繰り返された、想定外の言葉。口永良部島の教訓を学ばずにはられません。箱根大涌谷は依然として警戒レベル2です。